綱　領
われわれＪａｙｃｅｅは社会的・国家的・国際的な責任を自覚し志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう。

JCI 福島JCニュース
FUKUSHIMA JUNIOR CHAMBER OF COMMERCE
―福島青年会議所新聞―

福島青年会議所新聞
WEB版
Vol.497
発行責任者　高橋　美博
編集責任者　渡辺　忍

2016年度スローガン

知行合一

～己を律し、仲間を信じて行動せよ！
誇りに溢れるまち福島の実現に向けて～

「知行合一」とは

中国の明の時代に王陽明が学問である陽明学の命題の一つ。
「知る」ということは行動することの始まりであり、「行動」することは身に着けた知識を完成させることである。
知っているのに行動しないということは、初めから知らないのと同じであり、行動を伴わない知識は未完成であり、何もできないのと同じこと。

はじめに

第53代理事長
高橋　美博

2013年に創立50周年を迎えた福島青年会議所は、その創始の精神を連綿と受け継ぎ今日に至ります。また、東日本大震災から5年の節目を迎える2016年は、伝統を継承しつつも未来を見据えた運動を展開していかなければなりません。今日まで続く青年会議所の灯を、絶やすことなく次代へ紡ぎ、今まで以上に地域に頼られ求められる存在となるべく運動を展開してまいります。

魅力あふれる会員・組織へ

我々は青年会議所会員である前に、一社会人、家庭を持つ者、一人の人間として他に恥じることのないよう行動し、社会に対する責任を果たさなければなりません。ＪＣ運動と両輪をなすＪＣ活動の分野においても、それぞれが魅力あふれる責任世代の人間として成長することが求められ、その行動こそが会員拡大へとつながると確信しています。また、日々の多様な社会情勢の変革に即座に対応する組織であるべく、しっかりと未来を見据え、確固たるビジョンを確立し、運動を展開しなくてはなりません。

会員拡大の重要性・今が始まりの時

昨今、青年会議所は全国的に会員減少に頭を悩ませています。経済の飽和や少子高齢化による人口減少問題などが原因に挙げられますが、会員の拡大こそが青年会議所の根幹を担う事業であり、必ずや達成しなくてはならない命題です。会員拡大の意義を自覚し、覚悟を決する今こそが、始まりの時です。我々は、志を同じうするものをさらに集い、力を合わせ明るい豊かな社会実現に向けた運動を、キャピタルＪＣ（県都ＪＣ）としての誇りを胸に、大規模な会員拡大に邁進します。

希望を担う子どもたちへ

地域の未来は子どもたちの未来と密接に関わりを持ちます。子どものころに思い描く夢や地

域愛の醸成のために「わらしっ子塾」を開催し、さらに子どもたちの心身を鍛えるべく「わんぱく相撲」を開催します。また、青少年のみならず、青年期の若者たちへの夢と希望を育み、未来を描く機会を提供することが、この後の人生に大きなインパクトを与え、地域の未来へ寄与するものと信じ、福島の「希望」を育成します。

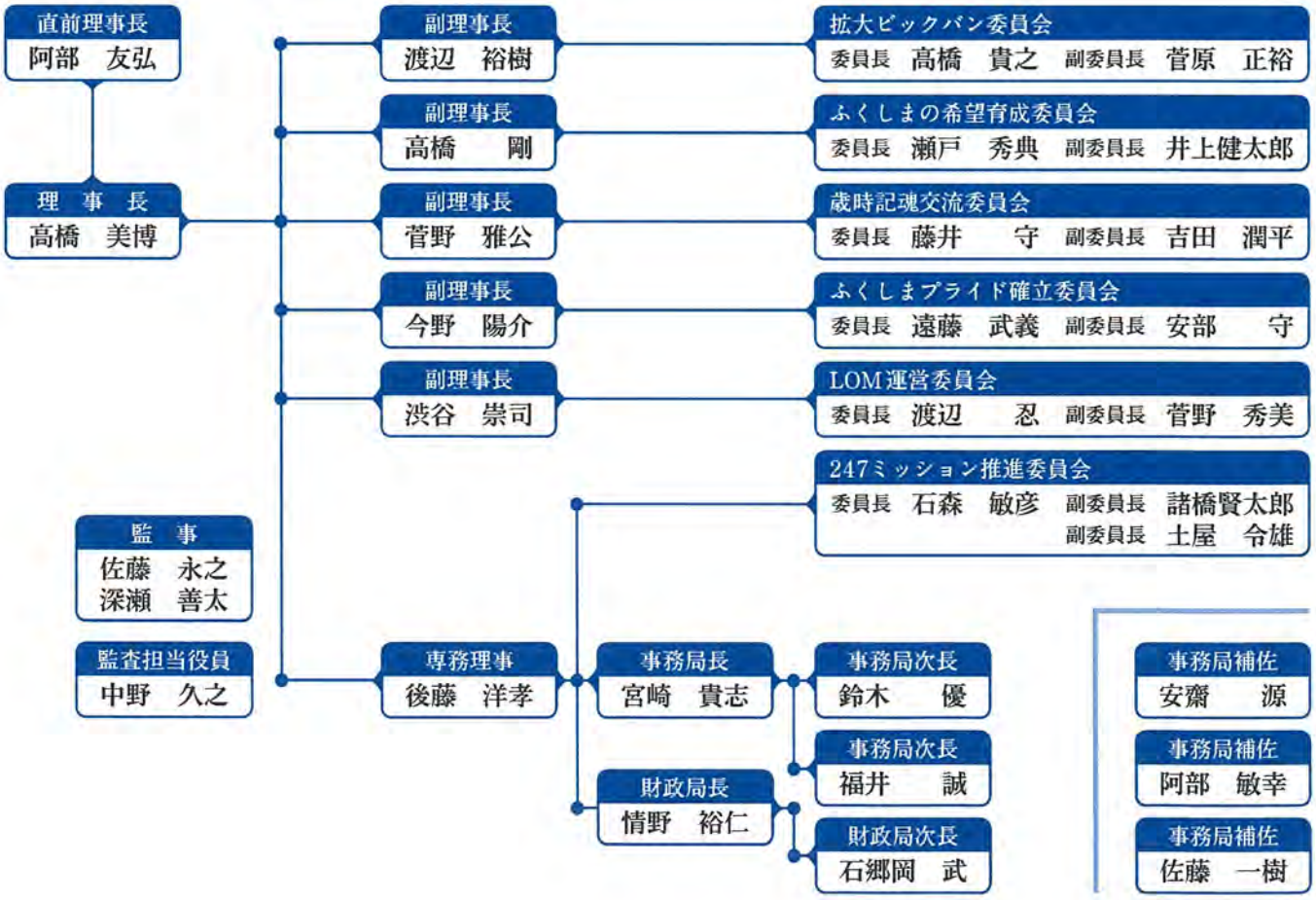
福島市の伝統と魂で 地域、全国、世界との交流を

東日本大震災以降、福島市は多くの注目を集め全国各地からの支援をいただき、それに応えるべく福島の魅力を発信してきました。福島わらじまつりはその知名度も上がり、全国、世界へと飛躍をしようとしています。この機会を活かし、わらじを活用した繋がりを活動地域のみならず、全国各地や広くは世界まで理解を深めるべく、福島の魅力を活かし積極的に交流します。

福島市に住み暮らす誇りの確立

福島に生まれ育ったことに対して誇りを持ってもらいたい。一度は故郷を離れたとしても、いつかまたこの福島に戻りたい。そんな想いを浸透させるべく、ソーシャルストックを活かした魅力づくりを発信することで地域愛を醸成します。地域が魅力的であれば、この地域へ戻りたいと思う人も増え、人口増にもつながります。人口が増えれば経済もまわり、地域が安定して発展するという地域社会のモデルケースを確立するべく、中心市街地活性化に関する事業を実施します。また、2012年度より続く「新ふくしま未来構想」に基づく事業を実施するとともに、有事の際に向けた福島市社会福祉協議会との災害支援相互協定締結を目指し、安全安心なまちづくりの一端を担います。福島市の魅力を再認識するとともに、市民のみならず全国へ伝搬するべく運動を展開することで福島の誇りを確立します。

2016年組織図



確実なLOM運営と法人格維持継続に向けた取り組み

公益法人格を有する団体として、より確実かつ正確なＬＯＭ運営が求められます。議事録作成や諸会議の運営ルールなど、まだまだ会員に浸透しきれない要素が多々あります。だからこそ、会員一人ひとりが自覚を持ち、ＬＯＭ運営を知るべく、法人格維持継続に向けた特別チームを構成し、定期的な勉強会を開催します。また、正確な情報の受発信を徹底します。さらに、各種会議における議事録作成を通し、個々人のスキル向上と次代へ紡ぐべく運営の基盤を築き上げます。

青年会議所会員としての使命

福島青年会議所では新入会員の割合が増え、入会３年未満の会員が半数に達します。まずはＪＣを、Jaycee としての使命を知る必要があります。また、ＪＣ運動とＪＣ活動の真の意味を知ることで一人の人間・社会人としてのありかたを学ばなくてはなりません。また、市民目線で物事を考えれば、入会一年目も十年も変わらない福島青年会議所の一員です。だからこそＬＯＭアカデミーを開催し、会員一人ひとりの知識向上、資質向上に努めるとともに、福島青年会議所創始の精神も学び、会員としての使命を醸成します。

結びに、愛する地域の未来のために

我々が生まれ育ったまちは今、東日本大震災以降、過渡期を迎えております。風評被害は感じられなくなってきたのではなく、風化へと変わりつつあるのではないでしょうか。自覚をしながら行動が伴わないということがないかと、常に自問自答をし、己を律し続けなくてはならないとの想いが、日を追うごとに強くなります。

青年会議所の門戸を叩き、11 年の年月が過ぎようとしています。誰一人として知り合いのいない中、只々夢中に青年会議所運動に邁進してまいりました。青年会議所に入会していなければ、今の自分はいなかったといっても過言ではありません。青年会議所があったからこそ仲間ができ、地域を愛し、未来を想い描く機会をいただきました。青年会議所が目指す明るい豊かな社会の実現に向け、私がいただいた経験と同じように機会の提供に努め、仲間とともに未来を創造してまいります。

私の信念である言葉『知行合一』は、真に知るということは必ず行動が伴うという意味を持ちます。自らの行動に責任を持ち、家族や会社、青年会議所の仲間、そして我々を育んでくれる地域に対する感謝の気持ちを忘れることなく、一年間職責を全うすることをお約束いたします。

己を律し、仲間を信じ、相手を認め感謝を忘れるな。
常に自らが先頭に立ち、汗をかくことを忘れるべからず。
誇りに溢れるまち福島の実現に向けて。

拡大ビックバン委員会

委員会スローガン

つながりこそが自己の力に変わる
～楽しさがつくりだす仲間の輪～

当委員会では、今年度も一斉拡大運動を行い、仮入会制度を引き続き活用し、拡大メンバーが拡大運動の基軸となるように率先し行動します。過去の拡大運動をメンバーとともに検証し、より効率的な拡大運動を行っていきます。又例会時には総決起集会を開催し、会員の拡大に成功した講師による講演会のもと、会員拡大への手法につなげていきたいと思います。明るく豊かな社会の実現へ向け、会員拡大は急務となっています。己を律し、仲間を信じ、相手を認め、感謝を忘れない、そんな想いをもって多くの仲間たちと共に未来へとつないでいく、そんな会員拡大をしていきます。

副理事長　渡辺　裕樹

委員長　高橋　貴之
副委員長　菅原　正裕

委員

追分　裕太　　杉本　　渉
太田　憲一　　鈴木　泰憲
大宮　　篤　　新田浩亜吉
岸　　秀樹　　吉田　卓弘
齋藤　久志　　神保　卓朗

ふくしまの希望（みらい）育成委員会

委員会スローガン

育てよう地域の宝、行動しよう地域のために

ふくしまの希望育成委員会は小学生を対象としたわらしっこ塾の開催、中高生を対象としたふくしまの未来育成塾の開催、わんぱく相撲の開催・引率を行います。

本年度、ふくしまの希望育成委員会では、次の３本柱で事業を展開します。まず、わんぱく相撲福島 LOM 大会で、両国国技館での全国大会出場を目指す小学生をサポートし、礼を学び感謝する心を育てます。次に、小学生の夢を具体化させる事業としてわらしっ子塾、中高生を対象に夢を具現化させる事業として、ふくしま未来塾を開催します。わらしっ子塾、ふくしま未来塾とも仕事をテーマにし、将来この福島で働き地域を支える人間、そして福島で起業する人間を育て、近い将来福島が明るくは誇りに溢れる町になるよう、希望に満ち溢れた若者にそれぞれが転機となるような機会を提供します。

副理事長　高橋　　剛

委員長　瀬戸　秀典
副委員長　井上健太郎

委員

大和田　諒　　芝田　裕哉
今泉　敏徳　　丹野　裕美
尾形優一郎　　馬場　貴裕
菅野　仁美　　八島　成友
駒田　晋一

歳時記魂交流委員会

委員会スローガン

誇りに溢れる福島のために・・・やったれ!

- 福島わらじまつりに関わる全事業の参画
- 福島の伝統文化を伝承し郷土愛を醸成する事業の開催
- 地域経済団とのまつりを生かした交流の推進
- 会員拡大運動の実施

歳時記魂交流委員会は、福島のソーシャルストックである「信夫山」「わらじ」を活用した事業を展開してまいります。最大級のコミュニティの復活のために、「第4回暁まいり福男福女競走」の開催をスタートに東北六魂祭、第 47 回福島わらじまつり、わらじを活用した遠征、式典等の事業を LOM、地域経済団体との協力で福島の元気を全国、世界へ発信してまいります。誇りに溢れるまち福島の実現に向け「ワッショイ」して行きましょう。

副理事長　菅野　雅公

委員長　藤井　守
副委員長　吉田　潤平

委員

阿部　真澄　鈴木　正人
安齋　源　芳賀　眞
遠藤　翼　松田　覚
菅野慎一郎　渡邊　裕太
國分　秀晃

ふくしまプライド確立委員会

委員会スローガン

市民の地域愛を呼び覚まし、誇り溢れるまち福島を実現しよう

福島市は豊かな自然と都市とが共存する美しいまちであり、また先人達が築き上げてきた文化や伝統が息づいた素晴らしいまちです。順調に発展を遂げてきた福島市ですが、震災以降はその有形無形の被害から市民は自分達のまちに自信を持つことが難しい状況です。

そこで、ふくしまプライド確立委員会は、委員会メンバーが力を結集するとともに福島青年会議所全体を巻き込み、未来を見据えたまちづくりを行うことで中心市街地活性化や安心安全なまちをかたちづくり、さらには福島の魅力を全国へと伝播させることで市民の地域愛を醸成するとともに福島の誇りを確立し、誇り溢れるまち福島を実現することを方針と致します。

ふくしまプライド確立委員会は、福島市の未来を思い描き、まちの発展に寄与することを使命としています。

当委員会では、全国からランナーが集い信夫山を駆け抜け植樹を行う「信夫山パークランニングレース 2016」、若者世代が福島市に必要とするものを探る「中心市街地活性化事業」、福島青年会議所の災害への即時即応体制実現のための「福島市社会福祉協議会との災害協定締結」、そしてこれからの福島市に必要なものとは何かを示す「ふくしま未来構想事業」、これら4つの事業を行います。

2016 年度のスローガン「知行合一」の精神の下、高橋理事長の目指す「誇りに溢れるまち福島」の実現に向けて委員会一丸となって取り組んでまいります。

副理事長　今野　陽介

委員長　遠藤　武義
副委員長　安部　守

委員

阿部　秀介　黒澤　俊之
阿部　敏幸　酒井　隆弘
石郷岡　武　佐藤　充孝
伊藤　大地　松村　知幸
尾形　彰彦　山村　忠之
菅野　誠也

LOM運営委員会

委員会スローガン

地味だなんて言わせない！
明るく楽しく活動して、福島青年会議所を支えよう！

53年目を迎える福島青年会議所において、当委員会では、LOMの基盤となる活動を展開して参ります。例会、新年会、創立記念祝賀会、卒業式の設営はもとより、JCホームページの運営、Web版JCニュースの発行を通して情報を発信し、理事会議事録の作成、公益法人格維持継続のための勉強会を開催するなど、LOM運営の基盤を築きます。今まで続いてきた灯を絶やすことなく、次代へ紡いでいくために1年間活動して参ります。

今年は、「ＬＯＭ運営委員会」という委員会名をいただきました。ＬＯＭ(福島青年会議所）を支えていく担いをいただき、基盤となる活動をしていく委員会ということで、より強い責任を感じています。

当委員会は、表に見える活動は少ないかもしれませんが、他の委員会が事業に全力を注げるように、ＬＯＭのことは我々が支えるんだという気持ちで活動をしていきたいと思います。そのためにも、まずは委員会メンバーが一丸となれるよう、明るく、楽しみながら活動していきたいと思っています。

決して地味な委員会なんかじゃありません。福島青年会議所を支える重要な委員会であることを自負しながら、１年間活動して参りますのでよろしくお願いします。

副理事長　渋谷　崇司

委員長　渡辺　忍

副委員長　菅野　秀美

委員

井上　義郎　佐藤　一樹
紺野　秀元　佐藤　大輔
近野　正樹　多田　悠紀
齋藤　栄太　丹治　史博
斎藤　秀人　野尻　伸吾

247ミッション推進委員会

委員会スローガン

唯心論
「素晴らしいLOMへの成長を～」

・ＶＭＶセミナー
・インパクトセミナー
・入会セミナー
・ＬＯＭ内アカデミー

当委員会は会員全ての皆さまにＪＣを理解し、よりＪＣを好きになって頂くために新たに設立された委員会です。
１年間を通してさまざまなプログラムを開催し、ＪＣの知識や魅力を伝えていきます。

専務理事　後藤　洋孝

委員長　石森　敏彦

副委員長　諸橋賢太郎
土屋　令雄

委員

倉島　央樹　鈴木　優

綱　領
われわれＪａｙｃｅｅは社会的・国家的・国際的な責任を自覚し志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう。

JCI 福島JCニュース
FUKUSHIMA JUNIOR CHAMBER OF COMMERCE
―福島青年会議所新聞―

福島青年会議所新聞
WEB版
Vol.498
発行責任者　高橋　美博
編集責任者　渡辺　忍

第４回暁まいり福男福女競走

2016年２月10日（水）夜20時より「第四回暁まいり福男福女競走」を開催いたしました。まずは、冬季開催にも関わらず例年以上に参加して頂きました、参加者の皆様、そして、年末の多忙の中にも関わらず本事業にご協賛頂いた核企業様、団体、個人の皆様に改めて厚く感謝申し上げます。

歳時記魂交流委員会では、福島の歴史の中で過去最大であったコミニュティ-の一つ「暁まいり」の再興、そして、市民の皆様から忘れ去られようとする伝統文化を甦えさせるべく。福島市の真ん中にそびえ立つ貴重な地域資源「信夫山」と300年の歴史ある「暁まいり」を活用し地域の皆様への健全な発展に役に立つ事業と考え事業を開催いたしました。

去年と同じく夜開催を選び「暁まいり」の時間に合わせる事で参加者、応援者の方々に体感して頂き、更に、ふるまいやイルミネーションを楽しんでいただく様に変化をさせました。参加者は、過去最高の365人の参加でありました。これも、同じ志を持ったメンバーが継続した結晶であると確信しました。

当日は、各放送局が駆けつけＴＶに取り上げて頂きました。着々と事業の知名度が上がりアンケートでは「来年も開催してください」「信夫山に必要な事業です。」など参加者の皆様から激励の言葉を頂きました。懸念された怪我や事故もなく無事に終了し「ホット」しております。

本事業を実施させて頂き、改めて思うことは冒頭で御礼させていただいた方々も含め、格別には委員会皆様への感謝があります。次年度、予定者の段階から年末年始の忙しい中、仕事、家族があるにも関わらず事業、故郷、そして青年会議所の為に共に運動をして頂きました事を誇りに思っております。そして、メンバーの方々ありがとうございました。

今後、私たちの事業が足風となり他の委員会の運動が成功するようにご協力すると共に、福島青年会議所が市民にとって更に必要とされる様に運動に取り組みたいです。
今後ともよろしくお願いいたします。

▲福島青年会議所 高橋理事長と福男福女の皆さん

誇りあふれる福島のために……やったれ！

災害時支援相互協力協定締結式

平成28年2月23日、ホテル辰巳屋において、社会福祉法人福島市社会福祉協議会と公益社団法人福島青年会議所が「災害時支援相互協力協定」を締結致しました。福島市社会福祉協議会からは、金子会長を始めとする4名の方と福島青年会議所メンバーが締結式に出席を致しました。

福島市は吾妻山や阿武隈川、荒川などの豊かな自然を擁しており、いつ起こるとも知れない自然災害に対して備えが必要です。東日本大震災において、福島青年会議所は各々の会員の強みを活かして、支援物資の調達や運搬について独自に展開しました。しかしながら、被災者のニーズの把握等において非常に苦労をしました。私たちは物資の調達能力や運搬能力は有しておりましたが、どこで誰が何を必要としているかがわからなかったのです。福島青年会議所の能力を最大限活かすためにも、被災者ニーズ把握に長けた社会福祉協議会と連携することによって、お互いの長所を更に高めることができると考えました。また、福島市社会福祉協議会も、災害時には福島青年会議所の力が必要であると理解していただきました。そこで、この度、両者の間に協定を締結する運びとなりました。

協定締結式においては、福島市社会福祉協議会金子会長並びに福島青年会議所高橋理事長より挨拶があり、協定締結の意義、福島市社会福祉協議会の活動について説明がなされました。また、NHKや福島民報新聞、福島民友新聞の取材も入り、福島市民の皆様にも報道を通して本協定締結について広く知っていただくことができました。

今後は福島市社会福祉協議会と福島青年会議所が連携を図り、平時には会議や防災訓練を通じて連携の強化に努め、災害時にはその能力を存分に発揮できるように備えてまいります。

災害は起こらないことが一番ですが、いつの日か必ず起こるものです。その備えを万全としておくべく、福島青年会議所は最大限の努力を行ってまいります。今後とも市民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

▲（左）福島青年会議所 高橋理事長と福島市社会福祉協議会 金子会長

信夫山パークランニングレース

本年も５月15日（日）に第４回目となる「信夫山パークランニングレース」を開催致します。「パークランニングレース」とは、日常的に楽しく街なかを走る「シティランニング」と緑や土の匂いを感じながら自然の中を走る「トレイルランニング」のいいとこ取りをした新しいランニングスタイルを楽しめるレースです。そして、福島市の中央に位置する信夫山は、シティ、トレイルが合わさったパークランニングレースの格好のスポットとなります。

４回目となる今回も、10ｋｍ男女、５ｋｍ男女、３ｋｍ男女、３ｋｍペアの７コースを設定しており、記録に挑戦するもよし、家族や仲間と楽しむもよし、自然を見ながらゆっくり走るもよしの参加者一人ひとりが自分なりの楽しみ方で満足できる大会となっております。また、福島市のシンボルである信夫山の魅力を県内外の方に知ってもらい、観光資源として認知向上に繋がればと考えております。

それから、レースを行うだけではなく、今回も食ブースを出展予定であり、前回大会に引き続き、桜の聖母女子短期大学の栄養士の卵たちと地元企業のコラボにより誕生した「アスリート弁当」や、地元企業とタレの開発から作り上げた「福島豚みそ生姜焼重」、また、福島市では誰もが知る地元料理「イカ人参」など数多くの料理を出展し、福島の魅力を存分に発信していきたいと思っております。こちらの食ブースに関してはレース参加者のみならず、一般来場者の方も飲食が可能となっておりますので、たくさんの方に大会の雰囲気を味わいながら食を堪能して頂きたいです。※ご飲食は有料となっております。

またパークランニングレースでは「Pink Park Project」として、太子堂公園内に桜の木の植樹を専門家の指導のもと毎年行っております。今年は桜だけではなくツツジの植樹も予定しており、季節に合わせた楽しみ方が今後一層増えるのではないかと考えております。信夫山に自分たちで植樹をすることにより、少しずつ成長し、花を咲かせる木々達を毎年見て頂くのも信夫山を訪れる楽しみの一つになるのではないでしょうか。

福島市は豊かな自然と都市が共存する美しいまちであり、そこには先人達が築きあげてきた文化や伝統が息づいております。福島市民が地域を愛し、誇りに思える福島を実現するため、この事業を行います。

パークランニングレースはもちろん、それ以外にも福島市の伝統や信夫山の魅力、または美味しい食事など、一人ひとりが違う発見ができる大会ともなっております。

最後に、今回の大会を通じてたくさんの方にご来場頂き、福島青年会議所の運動が皆様に伝われば幸いです。とても楽しい大会となっておりますので会員一同お待ち致しております。

参加者募集中！　申込締切　2016年4月17日

シティランニング×トレイルランニングで
福島市のシンボル「信夫山（しのぶやま）」を駆け抜けよう！

Pink Park Project

信夫山パークランニングレース2016

～信夫山を桃色に染めよう！～

5.15 SUN 10:00スタート！

スタート・ゴール／福島縣護國神社

エントリーはこちら http:runnet.jp/

「信夫山パークランニングレース」とは？

日常的に楽しく街なかを走る「シティランニング」。そして緑や土の匂いを感じながら自然の中を走る「トレイルランニング」。「信夫山パークランニングレース」はそんな２つのランニングのいいとこ取りをした新しいランニングスタイルを楽しめるレースです。そして福島市のど真ん中にある信夫山は、シティとトレイルが合わさったパークランニングの格好のスポット！街中の自然を感じながら、みんなで楽しく信夫山を駆け抜けよう！

コース監修：眞舩 孝道(MAFUNE-TAKAMICHI)
南会津地方在住マウンテンプレイヤー
信夫山暁まいり福男福女競走 初代福男

Pink Park Project
信夫山を桃色に染めよう！
レース終了後に参加者全員で
信夫山にソメイヨシノを植樹します！

主催　公益社団法人 福島青年会議所　http://f-247jc.jp/

協力／ふくしまトレイルランニング振興会・信夫山観光活用プロジェクト実行委員会（順不同）　ボランティア／うつくしまスポーツルーターズ・桜の聖母短期大学
後援／福島市・福島民報社・福島民友新聞社・ラジオ福島・福島テレビ・福島中央テレビ・福島放送・テレビユー福島・ふくしまFM・福島コミュニティ放送FMポコ（順不同）

綱　領
われわれＪａｙｃｅｅは社会的・国家的・国際的な責任を自覚し志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう。

JCI 福島JCニュース
FUKUSHIMA JUNIOR CHAMBER OF COMMERCE
═福島青年会議所新聞═

福島青年会議所新聞
WEB版
Vol.499
発行責任者　高橋　美博
編集責任者　渡辺　　忍
発行日：2016年7月

第29回　わんぱく相撲福島LOM大会

ふくしまの希望育成委員会
委員長　瀬戸　秀典

第29回わんぱく相撲福島LOM大会は、平成28年7月31日東京両国国技館で開催される「第31回わんぱく相撲全国大会」RESPECT ～お互いを敬い思いやる心～の、福島県北地区予選として開催されました。全国大会に出場するにはLOM大会で勝ちあがり、ブロック大会と呼ばれる都道府県代表を決める最終予選大会が本年度は会津坂下で開かれ、ここで代表選手に選ばれると、東京の両国国技館、大相撲と同じ土俵の上で、各学年のトーナメント形式の取組が行われます。地方大会からの参加者は、約40,000人。まさに、日本の小学生力士の晴れ舞台なります。

本大会は、福島県県北相撲協会との共催、福島市、福島市教育委員会の後援をいただき、平成28年4月29日、学校法人松韻学園福島高等学校室内相撲場にて開催することができました。当日は、福島県県北相撲協会会長　佐久間　行夫様、同協会理事長　矢吹　庄治様、（公社）二本松青年会議所　理事長神野　聴文君、（公社）だて青年会議所　理事長　菅野　譲君にご臨席賜り盛大に開催することができました。また、大会前には、福島県県北相撲協会より相撲の基本について、県北相撲協会事務局の二瓶　顕人様より実技指導をいただき、大会終了後には、ちゃんこ振舞い教室として、県北相撲協会副理事長、大波　政志様よりご講義いただきました。

選手達は少数精鋭でしたが、各学年全国大会でも上位の実力を持つ選手達がそろっており福島県北地区の相撲レベルの高さを実感できる大会でした。実際に6月11日に開催された、平成28年度福島ブロック大会会津坂下場所（福島県大会）では、小学6年生男子の部、小学5年生男子の部、小学4年生男子の部で完全優勝を果たし、全国大会へと駒を進めることができ、アトラクションとして開催された、6年生女子の部、団体男子の部で優勝、団体女子の部が準優勝と輝かし成績をおさめることができました。

このわんぱく相撲は、ただ相撲選手を育成する大会ではなく、青少年健全育成事業であり心の成長を手助けする大会でもあります。全国大会では、参加選手と引率メンバーが各相撲部屋に宿泊し、部屋の親方や、力士に指導いただき夢を育み、共同生活を体験し、心を成長させるプログラムとなっておりますので我々、ふくしまの希望育成委員会メンバーは最後まで選手達を応援していきたいと考えております。

第4回信夫山パークランニングレース2016～信夫山を桃色に染めよう～

ふくしまプライド確立委員会
委員長　遠藤　武義

2016年5月15日日曜日、「第4回信夫山パークランニングレース～信夫山を桃色に染めよう～」を開催致しました。本年も雲一つない晴天の下、831名の方にご参加いただき、新緑の信夫山を爽やかに駆け抜けていただきました。

本事業は、福島市のシンボルである信夫山の魅力を全国に発信すること、そして信夫山の魅力を高めることを目的に開催致しました。

パークランニングレースのコースは、昨年と同様に護國神社をスタート・ゴールとする10ｋｍ・５ｋｍ・３ｋｍの三つをご用意しました。それぞれ男女別の表彰とし、３ｋｍについては小学生以下の子どもと大人のペア部門も設けました。どのコースも信夫山内の名所を通るように設定されており、タイムだけではなく、名所や眺望を楽しんでいただけたものと思っています。

本年は、10ｋｍコースには344名、５ｋｍコースには153名、３ｋｍコースには158名、３ｋｍペアコースには88組176名が参加していただきました。毎年参加人数が増えてきていますが、それに連れて10ｋｍコース参加者が大きく増えることとなっています。本格的なランナーの方の参加が増えてきているものと感じています。

参加者の方には大会記念Ｔシャツと食ブースで使用できる500円分の食券を参加賞としてお渡し

しました。食ブースは信夫山太子堂公園に展開し、福島産の食材をふんだんに使用したお弁当や惣菜、スイーツが提供されました。桜の聖母短期大学の生徒さんが考案した季節のお弁当やアスリート疲労回復弁当も提供されました。また、給水所では福島産のいちごがふるまわれました。開会式やレース後には川俣の山木屋太鼓の勇壮な演奏も行われ、参加者の皆様には信夫山だけではなく、福島の魅力を存分に味わっていただけたものと思っています。

レース後は、小林香福島市長にもお越しいただきまして植樹式を催しました。第１回大会からソメイヨシノの信夫山への植樹を続けてまいりました。本年はソメイヨシノを３本、サツキツツジを50株植樹しました。サツキツツジは子どもが植樹するのに最適なサイズでしたので、たくさんの子どもが植樹を行いました。これでソメイヨシノの植樹数は累計で50本を超えました。信夫山が花でいっぱいになるように今後も続けていきたいと考えています。植樹をした参加者の方々が自分で植えた木の成長を楽しみに信夫山を訪れるようになっていただければ非常にうれしいことです。

本年は、北は北海道から南は三重県からの参加者があり、県外からの参加者も多数集まりました。アンケートによると、参加者の93.5％の方が本事業に満足したと回答し、97.8％の方が継続開催を望んでいます。また、97.2％の方が信夫山の魅力を感じたと回答しています。そして、福島市市民の参加者のうち99％の方が、本事業を通じて福島市への地域愛を感じることができたと回答しています。アンケート結果から、本事業を開催することができて本当によかったと感じています。

最後となりますが、本事業の開催に際しては本当に多くの方々にご協力をいただきました。たくさんのご協賛、そしてたくさんのボランティアの方々に支えられて無事に開催をすることができました。担当委員会を代表致しまして心より御礼申し上げます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

新入会員紹介

佐藤　孝明
山際　喬紘

菅野　太喜
新村　隆文

歳時記魂交流委員会

赤間　亮介
澤田　　健
籏野　良美

ふくしまプライド確立委員会

伊豆　浩幸
髙野　智宏
山尾　祥大

LOM運営委員会

徳永　直也
番匠　啓太
渡邉　恒博

綱　領
われわれＪａｙｃｅｅは社会的・国家的・国際的な責任を自覚し志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう。

JCI 福島JCニュース
FUKUSHIMA JUNIOR CHAMBER OF COMMERCE
═福島青年会議所新聞═

福島青年会議所新聞
WEB版
Vol.500
発行責任者　高橋　美博
編集責任者　渡辺　忍
発行日：2016年12月

第１回　ふくしま未来塾

ふくしまの希望育成委員会　委員長　瀬戸　秀典

本年度、（公社）福島青年会議所では高校生向けの事業として「第１回ふくしま未来塾」を開催しました。昨年までの青少年育成向け事業は小学生、中学生向けの事業であり、高校生向けの事業を開催したのは、初めてとなります。

ふくしま未来塾は、高校生が近々に迫った就職に対して明確な目標をもってもらうことを目的にサイボウズ株式会社、ソフトバンク株式会社協力のより８月５日、６日の２日間東京で開催しました。

８月５日は、サイボウズ（株）本社にて高校生のための夏の授業　OUR　VISION　CAMPUS～ハタチまでに学びたい未来のつくり方」に参加しました。全国から100名以上が参加し全国の高校生と交流できる有意義な時間となりました。受講内容としては、サイボウズ株式会社　社長青野　慶久氏による、『世界のすべてがわかる「フレームワーク」と「メソッド」』鎌倉投信株式会社　取締役／資産運用部長荒井和宏氏からは、『私たちの時代の新しい「お金」との付き合い方』、株式会社ユーグレナ　代表取締役社長出雲充氏からは、『ミドリムシが世界を救う⁉想いを強く持つこと』そして映画『ビリギャル』の小林さやか氏からは『ビリギャル本人だから語れる物語』をそれぞれ受講し、福島から参加した代表者による、「ふくしまの現状」を発表する機会を頂戴しました。

８月６日には、ソフトバンク（株）の本社にて、入社３年未満、ソフトバンク各部門でご活躍の若手社員さんから、働くことや社会人になるまでに学ぶべきことを共にディスカッションし、社員食堂で一緒にランチをいただき夢や希望がもてる学習の機会となりました。

高校生向けの育成事業は本年初開催であり苦労も多くありましたが、福島の高校生が全国の高校生や、ソフトバンク若手社員さんから学び取ろうとディスカッションし、質問する姿に感銘を受けました。今後も、近未来の福島を支え発展させるであろう高校生に向けに学習する機会を提供することが、誇りに溢れるまち福島の実現に向け必要であると確信しました。

第25回　わらしっ子塾～自分の未来を考えよう～

ふくしまの希望育成委員会　委員長　瀬戸　秀典

本年度ふくしまの希望育成委員会では、将来に向け「働くこと」を考えてもらう機会を提供することを目的にし、小学生３年４年生を対象に、第25回わらしっ子塾～自分の未来を考えよう～を職業体験として東京方面に１泊２日で開催しました。

まず、８月27日に事前説明会と徳育セミナーを開催しました。徳育セミナーとは感謝する心を育むプログラムであり青少年育成事業である本事業の趣旨し、保護者からのアンケートからもご好評いただきました。

そして、９月10日、11日の本番では、10日の初日には、バスに２台で埼玉県に向かい、クリクラ埼玉県本庄市のクリクラ本庄工場、埼玉県北本市のグリコ・ピア・イーストの工場見学し、そこで働く人や、創業者の考えを学ぶ機会を提供し、東京海員会館では、参加者の小学生が４～５人のグループで宿泊し共同生活を学びました。翌日には、キッザニア東京で職業体験をし、各企業での職業について詳しく学びまました。

２日間の職業体験で、参加者は２日間家族から離れ共同して学習したとで、自分で考えて行動できるようになったように思います。参加者の皆さんが働くことに希望を持ち学校生活や学習に意欲的に臨みこの福島を支えてくれることを期待したいと思います。

2016年度　事業報告

理事長 高橋　美博

【一年を振り返って】

2013年に創立50周年を迎えた福島青年会議所は、その創始の精神を連綿と受け継ぎ今日に至ります。また、東日本大震災から5年の節目を迎える2016年は、伝統を継承しつつも未来を見据えた運動を展開してまいりました。今日まで続く青年会議所の灯を、絶やすことなく次代へ紡ぎ、地域に頼られ求められる存在となるべく運動を展開させていただくことで、青年会議所の存在意義を示し、大きな成果を出させていただくことができたものと自負しております。

【魅力あふれる会員・組織を未来へ】

我々は青年会議所会員である前に、一社会人、家庭を持つ者、一人の人間として他に恥じることのないよう行動し、社会に対する責任を果たさなければならないと一年間言い続けてまいりました。ＪＣ運動だけではなく個々人の活動おいても、それぞれが魅力あふれる責任世代の人間として成長させていただくことができたものと実感しております。つまりは、日々の多様な社会情勢の変革に即座に対応する組織であるべく、しっかりと未来を見据えることで、確固たるビジョンの確立へとつながり、来る55周年への道しるべとすることができたと確信しております。

【会員拡大の成果・今こそ始まりの時】

本年は18名の新入会員を迎えることができました。昨今、青年会議所は全国的に会員減少に頭を悩ませていますが、経済の飽和や少子高齢化による人口減少問題などが原因であると悲観するあまりに、マイナスな意識が先に立ち会員拡大を妨げているのかもしれません。この福島にはまだまだ志を同じくする仲間が沢山存在するはずです。会員拡大の意義を自覚し、覚悟を決する今こそが、始まりの時であり、絶やすことなく想いを繋げなくてはならないとあらためて実感をいたしました。

【希望を担う子どもたちへ】

未来を創る子どもたちに少しでも地域を愛する心を醸成してもらいたいと、例年開催している「わらしっ子塾」に加え、「ふくしま未来塾」という高校生を対象にした事業を開催させていただきました。大企業の見学や、著名人からの講演を通して、自らが住み暮らす福島を、違った視点で見てもらう機会を提供させていただきました。参加者の眼差しや、物怖じをしない発言力には青年会議所メンバーも共に学びを得ることができる機会でありました。この経験が、後の人生に大きなインパクトを与え、地域の未来へ寄与するものと信じ、福島の「希望」を育成することができたと確信しております。

【福島市の伝統を活かした魂を込めた交流】

東日本大震災以降、福島市は多くの注目を集め全国各地からの支援をいただき、それに応えるべく福島の魅力を発信してきました。本年も、東北六魂祭をはじめ福島わらじまつりの知名度を活かし、東北六県のみならず日本全国との交流をしてまいりました。また、福島のシンボルとしてのわらじをもっと身近なものにとの想いから、小学校を対象にしたわらじ作り体験教室も好評を得、二度の開催をさせていただくことができました。そして、暁参り福男福女競走においては、伝統ある暁参りと共に冬の風物詩として広く市民に伝搬することができたことで、地域からの更なる期待を感じることができました。

【福島市に住み暮らす誇りの確立】

本年で第4回を数えたパークランニングレースでは850名に及ぶ参加者に福島においでいただき、信夫山の自然を満喫していただきました。また、福島に生まれ育ったことに対して誇りを持ってもらいたい。一度は故郷を離れたとしても、いつかまたこの福島に戻ってきてもらいたい。そんな想いから中心市街地活性化に向けたアンケートを実施させていただきました。小学生から高校生までの総数30000件に及ぶアンケートはこれからの福島のまちづくりに必ず役に立つものであると確信しております。そして2012年度より続く「新ふくしま未来構想」に基づく構想を再検証し、

アンケートと共に福島市へ提言をさせていただきました。さらには、有事の際に向けた福島市社会福祉協議会との災害時支援相互協力協定を締結できたことで、安全安心なまちづくりの一端を担うべく、福島青年会議所の地域における責任を再認識することができました。

【確実なLOM運営と法人格維持継続に向けた取り組み】

公益法人格を有する団体として、より確実かつ正確な運営が求められることを念頭に、法人格維持継続に向けた特別チームを構成し、運営ルールなど、まだまだ会員に浸透しきれない要素への学びの機会の提供に努めました。会員一人ひとりが自覚を持てるよう、定期的な勉強会を開催することで、個人のスキル向上へとつなげ、運営の基盤を築き上げることができました。

【青年会議所会員としての使命】

対外的な事業を展開するうえで、我々自身はその背中を見せることができる資格があるのだろうか。福島青年会議所では新入会員の割合が増え、入会３年未満の会員が半数に達します。市民目線で物事を考えれば、入会一年目も十年も変わらない福島青年会議所の一員です。だからこそ会員一人ひとりの知識向上、資質向上に努めるとともに、福島青年会議所創始の精神も学ぶ機会を提供いたしました。対象会員それぞれに自覚が芽生え、青年会議所会員としての使命を全うできる人財へと成長することができました。新たな人財の次年度以降の活躍を心から期待しております。

【ラストメッセージ】

青年会議所とは、とかく敷居が高い団体だと思った2004年、私は24歳でこの団体に入会をいたしました。同級生が青春と呼ばれる時代を謳歌する中、私自身は青年会議所運動に身を投じることになりました。時に理不尽なフリに頭を悩ませ、辞めたいと思い口にしたこともあります。しかし、青年会議所は誰一人として見捨てないのです。年齢など関係なく、一人の青年として扱ってくれるこの団体に心を奪われ、一心不乱に活動をしました。いつしか仲間が増え、共に悩み、共に笑うことができるかけがえのない同志となりました。起居振舞から礼儀作法、自分自身の想いの伝え方まで、全てはこの青年会議所に教えていただいたものであります。敷居を高くしていたのは自分であり、行動に遠慮をしていたのも自分であると気づかされた時、私には目標が生まれました。我々が生まれ育ったまちは今、東日本大震災以降、過渡期を迎えております。風評被害は感じられなくなってきたのではなく、風化へと変わりつつあるのではないでしょうか。自覚をしながら行動が伴わないということがないかと、常に自問自答をし、己を律し続けながら行動することで、福島の未来を切り開くことができると強く思います。その心こそが私の信念である「知行合一」であり、利他の精神を持ち合わせることができれば、明るい豊かな社会を実現できるものと信じております。

結びに、第53代理事長という身に余る重責を担わせていただくにあたり、メンバーはもちろんのこと、家族、会社の支え、そしてＯＢ会員のみなさま、関係団体、行政、そしてなにより地域のみなさまの協力がなくては成し得ることができませんでした。すべてのみなさまに心から感謝を申し上げますとともに、54年目の新たな歴史を刻む福島青年会議所に対しましても変わらぬご指導ご鞭撻、ご支援をお願い致しまして、一年間の感謝に代えさせていただきたく存じます。一年間ありがとうございました。

己を律し、仲間を信じ、相手を認め感謝を忘れるな。
常に自らが先頭に立ち、汗をかくことを忘れるべからず。
誇りに溢れるまち福島の実現に向けて。

事務局

事務局長　宮崎　貴志

2016年度事務局は、「知行合一～己を律し、仲間を信じて行動せよ！誇りに溢れるまち福島の実現に向けて～」の基に運動を展開するメンバー、高橋美博理事長をはじめとする三役、理事メンバーのサポートをしながら一年間活動して参りました。
正副理事長会議、理事会の設営はもちろん、各種事業のサポート、県北４JCとの連携、会員会議所会議の設営、各種ブロック事業、各種周年事業、各種大会への参加など多岐に亘ります。また、各委員会の皆様においては、各種遠征の渉外業務を担当していただき、ありがとうございました。
そして、７月には公益社団法人日本青年会議所の理事会にオブザーブさせていただき、会の運営、設営の在り方、会議の進め方等を勉強させていただきました。
事務局経験歴３回目の私でしたが、毎回色々なイレギュラーに遭遇し、専務理事の後藤洋孝君、事務局次長の鈴木優君、福井誠君にはいつも助けられ、「仲間を信じて行動せよ」の言葉が骨身に染みた一年でした。
最後に、決算理事会、一月総会の設営を残しておりますが、円滑かつ厳正で、さらには格好良く業務を全うし、2017年度にきちんと引き継ぎます。本当にありがとうございました。

財政局

財政局長　情野　裕仁

財政局はまず、各委員会が実施する事業や運動の効果を最大化するために、財政審査会議を開催し、予算執行を適正に行いました。そして、地域から負託された収益を適正に処理するために、ＬＯＭ財政の透明化並びに適正化を推進して参りました。また、円滑、健全なＬＯＭ運営を行うために、予算表並びに財務諸表を作成し、効率的且つ適切な財務運営を行いました。さらに、法人としての義務を遵守するために、登記関係に係る事項の一切を行い、組織としてのコンプライアンス強化を行って参りました。また、ＬＯＭ会計ガバナンスを一貫して行うため、その他、財政に関わる一切の業務を行いました。
財政審査会議では委員会と一線を画しながらニュートラルな状態で常に正しい判断を出さなければいけない立場としては、非常に苦痛でした。
私のことを申し上げさせて頂くと、普段はテキトーで大雑把な面が多分にあります。財政局をやらせて頂いてから、少し細かくなりました。それは物事の本質を深く追求し、目的や利益を俯瞰的に把握できる術を学んだ気がします。
これから公益社団法人として財政局の役割は更に重要なものとなってくると思います。そんな公益法人格としての草創期に携われたことは光栄に思います。
まだまだルールが未整備の中、正副委員長や理事会では本当に皆様にはご迷惑をお掛け致しました。
なんとか問題なく運営出来たのも皆様のご協力のお陰です。
一年間、本当にありがとうございました。

拡大ビックバン委員会

委員長　高橋　貴之

拡大ビックバン委員会は、「つながりこそが自己の力に変わる～楽しさがつくり出す仲間の輪」をスローガンとして、新たな仲間の輪を拡げるべく会員拡大運動に邁進してまいりました。例年成果に結びついている一斉拡大運動を継承しつつ、一斉拡大週間と銘打ち拡大強化週間、そして情報を共有する拡大報告会を開催し、４月には会員のさらなる拡大意識向上と拡大するための手法の学びの機会に、講師をお迎えして、拡大総決起集会を開催いたしました。ご参加いただいたメンバー皆様が拡大の重要性を再確認でき、例年以上の入会者数を迎える事が出来ました。これも一重に、皆様のご協力あっての賜物であり、心より感謝申し上げる次第です。本当にありがとうございました。

また、とうろう流し花火大会においては、昨今の異常気象から、台風の影響で開催河川の増水により、当青年会議所及び、とうろう流し発興会との共催以来、初の延期日開催となりました。この事業は、福島とうろう流し発興会をはじめとする、福島県、福島市、警察署、消防署、消防団など多くの関係各位のご協力のもと、開催に至ることができる事業でございます。天候や、その状況によって延期日開催となったにもかかわらず、理事長はじめ多くのメンバーにご参加・ご協力を賜り、事故・ケガもなく、福島市の夏の風物詩を運営できましたこと、忘れられない思い出の事業となりました。

会員の拡大は、40歳で卒業という青年会議所のルールの中、毎年必ず行っていく永続的事業です。今後の福島青年会議所の光ある未来のために、皆様にご協力いただきながら、新たな仲間の輪を繋げて参ります。一年間、誠にありがとうございました。

ふくしまの希望育成委員会

委員長　瀬戸　秀典

本年度、ふくしまの希望育成委員会は、小学生向け健全育成事業としてわんぱく相撲福島LOM大会、わらしっ子塾～未来の自分を考えよう～、そして高校生向け事業として、ふくしま未来塾を開催しました。

まず、わんぱく相撲福島LOM大会では、４月29日に学校法人松韻学園福島高校の室内相撲場にて開催し、その後の福島県大会では、小学４年、小学５年、小学６年の男子すべての学年で優勝することができ、両国国技館で開催された全国大会に進出することができました。全国大会では、全国の強豪に悔しい思いをして人間的成長が感じられる事業でした。

また、わらしっ子～自分の未来を考えよう～では、小学３，４年生が１泊２日で、東京方面に職業体験をしました。クリクラ本庄工場、グリコピアイーストの工場見学、小学生だけでの宿泊、翌日にはキッザニア東京で職業体験と、「働くこと」について学ぶことができる機会を提供し充実した事業となりました。

そして、今年度は福島JC初の高校生向け事業として、ふくしま未来塾を開催し、サイボウズ㈱の本社で、青野　慶久氏　サイボウズ株式会社　社長、荒井和宏氏　鎌倉投信株式会社　取締役／資産運用部長、出雲充氏株式会社ユーグレナ　代表取締役社長、小林さやか氏　映画「ビリギャル」の本人から、それぞれ専門分野での講義を受講し、福島の高校生からは、福島の現状についての発表することができました。翌日には、ソフトバンク㈱の本社において、ソフトバンクの３年未満の新入社員と働くことについてディスカッションし将来について真剣に考えられる授業となったと確信しています。

本年も、ふくしまの将来を担う青少年に対し学ぶ機会を提供することできましたことに対し御礼を申し上げ報告とさせていただきます。

歳時記魂交流委員会

委員長　藤井　　守

当委員会では故郷のソーシャルストックである「信夫山」「わらじ」を活用した運動・活動を行いました。「第４回福男福女競走」では、参加人数が例年より上回りイルミネーションを使いインパクトのある事業としました。「第47回福島わらじまつり」わらじ競走では、歴史を覆す挑戦を行い山車の競走から「健脚わらじ」を活用した競走の実施を行い、わらじ競走の本質を追及いたしました。「わらじ体験教室」「出張わらじつくり体験」では、県内外の参加者や学校の生徒に福島の伝統文化、歴史を幅広く伝える事が出来ました。そして、遠征活動では、他団体と協力し「東北六魂祭」のファイナルを飾りました。

全ての事業へのご協力があり無事に終える事が出来ました。そして、最高の委員会メンバーと活動が出来たことを感謝いたします。ありがとうございました。

ふくしまプライド確立委員会

委員長　遠藤　武義

本年度、ふくしまプライド確立委員会では「市民の地域愛を呼び覚まし、誇り溢れるまち福島を実現しよう」をスローガンに一年間活動をしてまいりました。

２月には、福島市社会福祉協議会と災害時支援相互協力協定を締結し、来るべき災害への備えを強化致しました。

５月には、第４回パークランニングレースを開催しました。800名を超える方に参加いただき、全国各地からの参加者に信夫山の魅力を発信することができました。また、福島市長にもお越しいただき、参加者とともに信夫山に桜とツツジを植樹していただきました。

他にも、中心市街地活性化事業として、福島市内全ての小中学生・高校生約30,000名にアンケートを行うとともに、その結果を基に学生会議を開催致しました。中心市街地活性化に向けては、若年世代の市外流出を抑えることが肝要と考え、そのためには何が必要かをアンケートと会議から探り、その結果を市へ報告書として提出致しました。

また、「ふくしま未来構想」事業として、全国各地の国際会議場を視察し、福島市に必要なコンベンション施設の具体的な形を探りました。そして、福島青年会議所として福島市に最適なコンベンション施設の具体的な形を提言書にまとめ、福島市へ提出致しました。

本年は、当委員会が担う事業も多く、委員も苦労したことと思います。しかしながら、福島青年会議所全メンバー、ＯＢの皆様、そして地域の皆様のご協力があって、何とか全ての事業をやり抜くことができました。心から感謝を申し上げます。一年間誠にありがとうございました。

LOM運営委員会

委員長　渡辺　忍

今年度、LOM 運営委員会では、例会、新年会、創立記念祝賀会、卒業式の設営、ホームページの運営やこの JC ニュースの発行、理事会議事録の作成、公益法人格維持対策室勉強会の開催等、多岐にわたり活動してまいりました。大きな事業はありませんが、ひとつひとつが LOM にとって大切なものだったと思います。今年の委員会スローガン「地味だなんて言わせない！明るく楽しく活動して、福島青年会議所を支えよう！」の通り、地味ではなく、存在感を残せた委員会になったのではないかと思っております。それも、委員会メンバーや会務担当渋谷副理事長、ご協力いただいた皆様のお陰だと思っております。この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

この後も、例会の設営や、卒業式の設営、理事会議事録の作成など、12 月いっぱいまで担いは続きます。最後までしっかり担いを果たし、次年度へ引き継いでいきます。

１年間、ありがとうございました。

247ミッション推進委員会

委員長　石森　敏彦

本年度、247 ミッション推進委員会では“唯心論”「素晴らしい LOM への成長を～」をスローガンに一年間活動をしてまいりました。高橋美博理事長より若手会員の育成と JC の意義を発信する担いを仰せつかり、各委員会より輩出された 21 名の若い会員をミッション生とし、２月例会にて結団式を行いました。また同月、大内淳子先輩に講師をして頂き「VMV セミナー」を開催しＪＣについて学びの場を創出し、３月に「現役・OB 架け橋」事業を講師に鈴木宏幸先輩をお招きし LOM の歴史と JC マンとしての心得を教わりました。６月には 13 名の新入会員へ入会セミナーを開催し若人たちへの入会を牽引いたしました。そして７月に外部講師をお招きし、JCI 公認コースの Impact セミナーを開催し地元地域と JC との今後の関わり方を、グループワークを通じ勉強致しました。さらに９月に東北地区協議会と福島ブロック協議会の役員会議へ若手会員をオブザーブに引率し LOM 以外の JC 活動・JC 運動を周知致しました。10 月には一年を通じ学んだ、さまざまな事柄の成果を当委員会設営の例会にて修了式を開催しミッション生より一人ずつスピーチで「今後、JC でやってみたいこと」をテーマに発表を行い、現役会員より沢山の称賛を頂戴することが出来ましたことを御報告させて頂きます。

最後となりますが事業のみならず、JC 活動・JC 運動ともに先輩方からの想いを継承する事が出来たのも、自ら考え行動してくれる素晴らしい委員会メンバーに恵まれたこと、また様々な場面で協力を惜しまず委員会を支えて下さった全ての皆さまのおかげであったと心から感謝しております。

１年間、誠にありがとうございました。

2016年　主な事業

▲わらしっ子塾

◀わんぱく相撲

▲インパクトセミナー

▲拡大報告会

▲パークランニングレース

▲出張わらじ教室

▲福男福女競走

▲第４回ハチ公サミット

▲現役・OB架け橋事業

▲家族例会